



No.257 2019年1月1日

連合宮城



発行 日本労働組合総連合会
宮城県連合会 (連合宮城)
発行人 大黒雅弘 編集人 佐竹一則
〒981-0014 仙台市青葉区本町 2-12-7
TEL (022) 263-9762
FAX (022) 263-9763
E-mail: info@miyajijtuc-rengo.jp

“働くことを軸とする安心社会の実現” に向け更なる連帯強化を

連合宮城2019「新年のご挨拶」

新しい年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は地震や台風による大きな自然災害が多発しました。犠牲になられた方々には、心からお悔やみを申し上げます。この災害においては、私たちが経験した8年目を迎える東日本震災の教訓が生かされていたかという、行政の対応や、特に被災された地域の方々の準備については、必ずしも十分とはいえない面もありました。私たち連合宮城は震災の体験を残し伝えていくことと、地域の再生を目指して、住まいやコミュニティ、雇用、経済などの課題を具体的に解決するために、連合内外への情報発信を継続していきます。



さて、日本の株価水準は、バブル期以来最高を示したかと思うと、大きく乱高下をするなど実体経済からかけ離れたマネーゲームの様相をさらに強めています。一方で、政府・日銀のGDP 2%成長目標はとん挫、年末にはマイナス基調になるありさまで、今年10月の消費税増税が実施されれば、さらなる景気後退は避けられないといわれています。

安倍政権がこのような経済政策の失敗や、閣僚の相次ぐ不祥事、いまだに不透明なままの森友・加計問題などの疑惑を抱えながら、通常国会が開幕します。

いまだに野党勢力は分断された状況にあります。連合のすすめる「政権交代可能な二大政党的体制」を目指す政治の実現に向けて、連合宮城政策フォーラムを基軸に、組織内議員・推薦議員との連携を深めつつ、構成組織が一丸となって取り組む体制を整えていきます。そのうえで、7月の参議院選挙をはじめ、仙台市議会議員選挙、県議会議員選挙などの勝利を目指していきます。

連合は2019春季生活闘争において、6年連続となる賃金引き上げの取り組みによる「底上げ・底支え」「格差是正」を前進させてまいります。連合運動への理解と共感の輪を広げていくために、共に行動しましょう。

本年も連合宮城に対する一層のご支援をお願いするとともに、皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げます。

日本労働組合総連合会宮城県連合会

会長 小出 裕一

2019年 新年のご挨拶 日本労働組合総連合会 会長 神津 里季生



新年明けましておめでとうございます。連合運動に対する日頃のご指導・ご支援に心より御礼申し上げます。

今年、連合は結成30周年を迎えます。各構成組織・地方連合会との丁寧なコミュニケーションによる情報共有と合意形成に努め、一体感のある運動を推進し、組織力・政策力・発信力強化に全力で取り組んでいく所存です。同時に、将来の私たちを取り巻く環境変化を見据えた新たなビジョンを示し、希望ある未来づくりへの運動を打ち出してまいります。

「働くことを軸とする安心社会」の実現には、働く者・生活者の立場に立つ政治勢力の拡大が必要です。第79回中央委員会では、立憲民主党、国民民主党と、第25回参議院議員選挙に向けた政策協定を締結いたしました。統一地方選と参院選が重なる重要な今年、総力を挙げて闘っていこうではありませんか。

本年も、連合に対する一層のご支援をお願いするとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

以上

労働相談ホットライン・Action! 36

街頭でアピール

長時間労働の是正に向けた取組みの一環として、「全国一斉労働相談ホットライン～働き過ぎていませんか？まずはあなたの働き方を診断！～」をテーマに、2018年12月11日(火)～

12日(水)の2日間、連合宮城としても労働相談ホットラインを開設した。

開設に伴い、フリーダイヤルを3回線に増設し、労働相談アドバイザーを中心に、常任執行委員並びに女性委員会役員が対応にあたった。

初日にはテレビ取材もあり、2日間で23件の電話相談が寄せられた。

前日の12月10日(11時45分より)には、労働相談ホットラインのPRを中心に、「Action! 36」の取組みと連動し、適正な36協定締結や2019年4月1日より施行される、改正労働基準法について一番町平和ビル前において連合宮城仙台地域協議会と連携し、総勢25名で街宣行動を行い周知活動に努めた。



連合宮城「2019春季生活闘争討論集会」開催 2019年1月31日(木)仙台国際センター18時開会

2019春闘スローガン 『今こそブレイクスルー！すべての労働者の処遇改善と働き方の見直し！』

Action!

36

連合「Action! 36」キャンペーンスタート

連合は、すべての職場でのより良い働き方の実現を目指し、36協定の適切な締結をはじめとする職場の取組みの徹底とともに、地域や社会における機運の醸成をはかる特別キャンペーンを開始しました。

連合宮城第68回地方委員会開催

第15期の折り返しとなる第68回地方委員会を2018年10月23日(火)、ハーネル仙台において開催し87名が出席した。

議長団には自動車総連より見楚谷(みそや)政則地方委員、私鉄総連より赤間達夫地方委員の2名を選出し、議事進行に努めていただいた。



執行委員会を代表し小出会長は、「昨年10月24日に開催した第15回定期大会から一年が経過し、本日の地方委員会が第15期の2年間の折り返しとなる。残された課題と今後の取り組みに触れながら所見を申し上げる」とした上で、①西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震の災害状況や連合宮城のこれまでの対応、②東日本大震災の教訓から得る自然災害への備え、③2018春闘



の取り組み、④宮城県地域別最低賃金、⑤来年施行される自治体選挙・参議院選挙への考え、⑥組織拡大など、大枠6項目について触れ、「連合は結成30周年を迎える。先輩たちが築いてこられた歴史の上に更に信頼と期待が寄せられるような連合宮城の運動を皆さんとともに、進めて行く」と決意を述べた。

活動報告では、一般活動報告並びに2018年度会計決算報告は承認。議事においても、第1号議案・2018春季生活闘争のまとめ、第2号議案・2019年度運動の進め方について、第3号議案・2019年自治体選挙の連合宮城対応について、第4号議案・2018年度会計剰余金処分について、第5号議案・2019年度会計予算について、第6号議案・役員交代について、第7号議案・役員

の交代について、第7号議案・役員

表彰について、第8号議案・その他まで満場一致で承認された。

役員表彰では、富永信明さん(前副会長・8年 U Aゼンセン)、後藤完也さん(前常任執行委員・9年5ヶ月 U Aゼンセン)、佐藤宏彰さん(前執行委員・2年 東北国税労組)、鈴木啓之さん(前会計監査・8年11ヶ月 紙パ連合)の4名がこれまでの連合運動の功績をたたえ表彰された。

富永さんより「表彰を頂き感謝申し上げます。2010年より連合宮城の仲間の皆さんと活動をさせていただいた。着任早々の2011年3月11日の未曾有の災害を経験した。当時は『職場を守る・地域への支援活動を積極的に行おう』という

事で、連合宮城が全国の窓口となり多くの仲間を迎い入れ支援活動を積極的に図ったということ



は、貴重な体験と思い出になっている。これらの連合宮城の活動は多くの皆さんより評価をいただき、社会的地位を築いたと思っている。更に連合宮城の発展を祈念する」と感謝の挨拶があった。

引き続き後藤さんより、「役員表彰をいただき御礼申し上げます。2009年4月より、常任執行委員として連合



大崎地協の活動に携わってきた。人生の半分を組合活動に従事してきたが、何を残せたのか自問自答するところではある

が、多くの仲間を作れたということは私の財産になっている。連合宮城の皆さん、そして大崎地協の仲間の皆さんには大変お世話になった。今後益々の連合宮城の発展をご祈念申し上げます」と御礼の挨拶があった。

活動報告

西日本豪雨災害ボランティア

連合東北ブロックの要請のもと、西日本豪雨災害に係るボランティア活動への派遣を行った。広島県の「くれ災害ボランティアセンター・天応(てんのう)サテライト」を拠点とし、主に、床下の土砂出し等の活動が中心となった。



当初の計画では9月に4つの班を編成し活動を行う予定であったが、最終週は悪天候により中止となったが連合宮城からは8名を派遣した。

1. 活動日程と派遣予定について

- 第1班(3人) 9月7日(金)～10日(月)
- 第2班(3人) 9月14日(金)～17日(月)
- 第3班(2人) 9月21日(金)～24日(月)
- 第4班(中止) 9月28日(金)～10月1日(月)

2. 活動報告

◇第1班

活動予定日の両日は、あいにく雨となり外での活動は中止。豪雨災害から3カ月が経過した現地の状況視察や、くれ災害ボランティアセンターで全国各地から寄せられた支援物資の移動作業等を行なった。

◇第2班

活動初日は雨模様となり中止も危ぶまれたものの、雨脚が落ち着いてきたこともあり、当初予定の9時から1時間ほど遅れ、10時から活動スタート。2日目は朝から晴れ、30℃前後の蒸し暑い環境の中、活動を行った。天候に左右されたのか、土曜日は60人前後、日曜日は100人を超えるボランティアが受付している状況であった。



活動内容については2日間とも同一個所の民家であり、床下の清掃が中心であったが、非常に大きいお宅であり、2日間で床下の半分程度しか清掃を終了させることができなかった。ボランティアセンターの方の話によると、被害のあった地域の泥出しについては概ね終了したものの、個人宅についてはまだまだ片付いていないところも多い状況にあるとのことであった。



◇第3班

連合広島呉地域協議会は、くれ災害ボランティアセンター天応サテライトの運営として、専従者と構成組織より毎日4名を派遣。土曜、日曜等の休日には現地ボランティア活動として構成組織からの協力を受け、20名位の規模でボランティア活動を実施しているとのことであり、この日も連合のマークが入ったビブスを着たメンバーも多く見受けられた。



活動を行った地域は平坦な場所ではなく、傾斜がある土地に家が建てられているため、高低により同じ地区内であっても、床上浸水した住居、床下浸水した住居、家の一階部分まで浸水した住居と被害状況は様々である。

床下の汚泥は10センチ位の厚さに蓄積され、元々の床下の土部分とは区別が付き、取り除きやすい状態であったが、完結までには至らず、参加者からは「完結しなかった」という思いが漏れた。一日も早い復興を願い活動を終了した。

